

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式1

提出日 令和7年8月26日

派遣大会・事業名	第55回全国中学校バスケットボール大会
派遣期間	令和7年8月21日～8月24日
報告者	岡 龍哉
派遣先	鹿児島県鹿児島市、薩摩川内市

派遣スケジュール

2025/8/12	審判会議 (zoom)
2025/8/22	予選リーグ
2025/8/23	決勝トーナメント

大会参加審判員 (本部・指名審判員のみ記載)

本部審判員	加藤 暁生 氏、東條 輝正 氏、若林 謙作 氏、細見 竜太 氏 坂 美佑紀 氏、千葉 美幸 氏、野崎 梨奈 氏、青木 紀江 氏
指名審判員	

審判会議 ミーティング内容 (共通事項・強調された点など)

主催者挨拶	JBA審判委員長	前田喜庸様
歓迎の挨拶	鹿児島県協会会長	鯨島俊秀様
	鹿児島県審判長	原田拓朗様
	鹿児島県U15審判長	川井剛様

【研修1】U15全国大会における過去のトラブル共有 加藤暁生氏

怪我に関して

- ・中学生の成長過程で怪我が多い。
- ・判定面で防げるものもある。
- ・起こった直後の対処も重要。
- 予想されるトラブルの例
 - ・負傷してしまい明らかなファウルだったのをコールできない。
 - ・負傷者の介助→交代の確認不足。同時刻入退場。
 - ・UFかどうか確認しない。

TOトラブルに関して

- ・中学生がTOを行う。TOの生徒も【全国大会に参加できてよかった】と感じることができるよう、連携を密にし、審判がリードすることが大切。
- ・TO生徒に分かりやすいレポートを実践。声を使う。
- 予想されるトラブルの例
 - ・チームファウル、個人ファウルの数間違え。
 - ・クロックの修正ミスでクロックを間違えて増やしてしまう・減らしてしまう。
 - ・得点のつけ間違えに気づかない。

処置ミスに関して

- ・正しいルールを理解→普段からルールブックを読みこむことが大切。
- ・クルーワークの質を高める。→何かあってもクルーで対処していることが大切。
- 予想されるトラブルの例
 - ・フリースローシューターの間違い。
 - ・チームファウルボーナス場面でフリースローを逃してしまう。
 - ・スローインファウルのフリースローの数を間違える。

【研修2】ブレイクアウトルームに分かれて仮想全国大会決勝トーナメント1回戦のPGCを行う

CC役 細見竜太 氏

テーマ「クリーン・ザ・ゲームのための意見の共有」

レフェリーとして大切にしていること

common sense : 共通理解、常識

クルーで意見を出し合い共有することで、相手がどう考えているか理解しておくことが大切。

クリップ映像を見ての意見交換

- ①エースプレーヤーに対するディフェンス→ディフェンスファウルも考えるが、オフェンスから仕掛けていないか確認。ディフェンスファウルをとっておき、オフェンスにも声をかけておく。
- ②リバウンドface to faceでボックスアウトの場面。手の使い方をよく見る。
- ③トランジション場面でのオフボールでの接触(オフェンスファウル・ディフェンスファウル・ノーコール)→誰が判定するか確認。ブレード回避。
- ④ウィークサイドヘルプディフェンス→誰が判定するか確認。映像を見ながら判定はどうか確認。

感想: 同じ映像を見ているが、同じ意見の人がいれば、違った意見の人もいるので意見のすり合わせは大切だと感じた。メカニクスは全国の誰とクルーを組んでも共通して実践できるものなので、メカニクスの理解と実践を普段から続けていき精度を上げることが大切であると感じた。

【研修3】U15カテゴリーを担当する上での留意点 東條輝正 氏

(マンツーマンルール/インテグリティ/TOコントロール)

- ・マンツーマンルール・・・ペナルティと再開方法を確認。
- ・インテグリティについて・・・映像に残るので肅々と判定(クルーワーク)
- ・TOコントロール・・・「中を手伝ってよかった」と思えるよう、声かけ、分かりやすいTOレポートでミスを防ぐ。

行動規範/担当審判員確認事項 加藤暁生 氏
開催県より諸連絡
閉会の挨拶 鹿児島県審判委員長補佐 隈元ゆみこ 様

様式2

提出日 令和7年8月26日

担当試合

試合日	令和7年8月22日(金)
回戦 カード 点数	男子予選リーグ 京都精華学園中136-30名古屋市立日比津中
会場	西原商会アリーナ
審判員名	CC岡龍哉 U1前川覚(鹿児島) U2山口健人(鹿児島)
審判員主任名	前田隼大(鹿児島)
試合振り返り	

PGCではシンプルな判定を積み重ねること、TOの中学生にわかりやすいレポートをしていくことを確認した。試合は京都精華が序盤からリードを広げる展開であった。2Qに京都精華のシリンダーを越えて守るものをコールしてもよかったと反省が出た。後半は両チームメンバーを交代しながら戦う中で、もっと明らかなものを見極めながらコールしてもよかった。また、フリースローのあとの交代にクルーでも気づかないでスタートしてしまうことや、得点が合わずインターバルが長くなってしまいうなど、スムーズなゲーム運営をするためにもっと気を配る必要があった。

担当試合

試合日	令和7年8月23日(土)
回戦 カード 点数	男子準々決勝 倉敷市立南中52-57世田谷区立梅丘中
会場	西原商会アリーナ
審判員名	CC細見竜太(本部) U1岡龍哉 U2三島圭一郎(島根)
審判員主任名	高橋和也(宮城)
試合振り返り	

どちらも3ポイントシュートを高確率で決めてくる展開で、しっかりプレーを見極め、選手が思い切ってプレーできるよう、判定を続けていった。プレーに合わせていい距離やアングルをとりながら判定をしていった。遅れて接触してファウルをコールしたと現場では判断したが、映像で振り返るとリーガルでよかったものがあった。また、クルーワークでショットクロックの訂正もすることができた。このゲームでもファウルの数を確認してほしいとTOから依頼があり進めたが、TOやチーム、観客が見ていて分かりやすい試合のデリバリーを実践していきたい。

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

今回はPBA派遣として、2試合審判をしてきた。毎試合中学生の熱い気持ちをコートで感じながら審判ができた。より丁寧に、よりいい試合にしていけるよう心がけてコートに入った。普段、自分が取り組んでいるところを出そうとしたが、まだまだ出来ていないことを沢山感じた。自分の力を上げつつ、オンザコートでそれを出せるようにしたい。判定に関しては、明らかにイリーガルなもの、影響があったものに笛を入れていくことの大切さを感じた。また、TOとの連携は、ゲーム前にTOの中学生に声をかけ、試合中も気にしながら進めていくことができたが、TOミスを防ぐために審判がより丁寧に、声を使ってレポートをすることが大切だと感じた。今回派遣させていただき、鹿児島のS級や上級審判、全国の審判員とコミュニケーションを沢山とることができた。全国の審判員に負けたくないという気持ちがより湧いてきた。一つ一つ力をつけてレベルアップし、来年の島根全中派遣を勝ち取れるように努力していきたい。

最後に、鹿児島に台風が直撃する中、細やかな対応をしてくださった鹿児島県の審判員・大会役員方々、また派遣に際しご配慮いただきました梶審判長をはじめ栃木県の皆様に心から感謝申し上げます。